

小来川地区内公共施設適正化検討専門部会会議録

件名	第四回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会		
日時	令和元年5月30日(木) 18:00~20:00	作成日	2019年6月14日
場所	小来川林業研修センター 2階多目的ルーム	記録者	資産経営課 斎藤
出席者			
<日光市> 小林資産経営課長 資産経営課公共施設マネジメント係職員 高梨小来川地区センター長		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			
■配布資料 第四回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会 資料1 ■議事録 1. 開会 2. 部会長挨拶 「皆さんこんばんは。大変お疲れのところかと思いますが、第4回目の小来川の検討部会ということで、よろしく願いいたします。これまで3回やってきまして、皆さんからの色々な意見を集約して、ある程度方向性としては、施設はこういうものが需要というのがほしいグループが出てきたように思います。そのなかで、やはり人が集えるような施設が良いのではないかとするような意見を一人一人が持っております。それから、集約の中で、あまり今回のなかでは出なかったのですが、やはり学校が中心になってくるといことになると、学校の問題も今後検討しなくてはならないということで、過日、小来川の教育振興会の中でも、そういう話を出しまして、今後検討していくというような方向性も出てきましたので、そういうことも含めて、また、今までのなかでメンバーも代わっておりますし、意見が言えなかったようなところもあるかと思いますが、そういう意見はまた是非とも思いついた時点で挙げていただければと思いますので、よろしく願いいたします。」 3. 議事 ○部会長 「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。それでは、(1)小来川地区内公共施設の再配置の考え方の整理について事務局より説明願います。」 (1)小来川地区内公共施設の再配置の考え方の整理について 事務局より、資料1を用いて説明。 ○部会長 「今事務局より、1回目から3回目、特に2回目3回目の内容が中心になりますが、集約したなかでまちづくりの展開ということで一つの方向性意見集約されてきたことを前提に意見をということでしたが、メンバーも途中で変わった方もいらっしゃるの、少し違うのではないかと意見も含めて、皆さんの意見をいただいて、さっきの交流の場についてはその後に意見をいただくということで。それから、学校のことはここで意見をいただいた方が良いでしょうか。では、まず、これまでやってきたなかで、まとまった意見というところは、皆さんその通りかなということが良いのか、若干方向性が違うのではないかとかそういった意見がありましたらお願いします。」 ○部会員1 「今行政からの説明のなかに若干引っかかることがある。学校が運営されなくなるように聞き取れたんですが、それを前提に考えるということが含まれているのかなと今感じたのだが、その点			

議事内容

はいかがなのか。」

○事務局

「説明のなかで、不足しているところがあったのかもしれないが、学校がなくなるということを前提にしてという話ではまずないというところですよ。逆に言うと、1回目から参加の委員さんと3回目からご参加の委員さんもいらっしゃるんで、わかりづらい点があったかもしれないが、今日配布している「小来川地区内公共施設適正化検討ニュース」という資料の見開き左のページに第1回専門部会ということで、1回目の会議を2月7日に開催した際、現状のお話とか課題などを市側から説明させていただいて、その1回目の会議の中で、部会員の方から出た意見ということで、「将来のことを考えた時に子供たちのことを考えて、学校自体の存続、今後の在り方ということも含めて検討してもらいたい」というようなお話がありました。市側も教育委員会で平成28年に小中学校適正化の考え方というのを出しているんですけども、その中では小来川小中学校は存続する学校という方針が出ていまして、その中では存続ということですが、先ほど説明した1回目の会議の中で、児童生徒数の将来的な推移をご説明したなかで、将来的に減っていく方向が見えているなかで、小規模校の持つ良さもあるとは思いますが、この部会員さんから出た意見にもあるように、子どもたちの教育環境ということを考えて時に、学校をそのまま良いのかということも検討をしていただきたいという意見もありまして、それも踏まえて、過去2回グループワークの中でもいろいろとご意見いただいた中で、それを物理的にハコモノとして実現していこうとなった時に、やはり一番学校がキーになってくるところでしたので、今回ご意見をいただきたいということになっております。」

○部会長

「学校をなくすというのが前提ではない。集約の形で、これは、市の案のなかで、学校が今一番耐震性とかの状況から、当てになるといえるのか、それから規模も大きいということで、だいたいそこが中心になってくるようなときに、その時にずっと学校があることが前提で良いのかという議論、ご意見が出た訳ですね。今のところは無くなるという方向性はないのですが。」

○部会員2

「以前、児童生徒数が50人以内になると統廃合の対象ということが言われたと思うが、今現状これだけの人数で、行政として大丈夫なのか。無くさないということが言えるのか」

○事務局

「学校施設の存続をどういう風にしていくかというのは、こちらの場面というよりは教育委員会の方で、市内の小中学校どういう風にしていくかということで議論されているところで、私たちの方は学校という施設、ハコをどう活用していけるのかということと、学校が存続すれば存続したなりに、今空いているところをどのように活用できるのかとか、仮に学校を存続しなくなるとなれば、今度、すべて空く訳ですから、その空いたところをどのように活用していきましようかという、そういう風なところになります。なので、学校という機能を残すか残さないかということになれば、先ほども話しましたとおり、教育委員会からすると現状としては、存続するという形になってはいますが、一回目の会議の際に、専門部会の皆さんからご意見が出たということもありまして、こういう形でご説明させていただいた。」

○部会員2

「私は1回目の会議に出ていなかったのですが、わからないのだが、結局学校がなくなるということは過疎化につながる。そういうことを含めて、市の方としても、進めてもらわないと大変だと思う。」

○部会員3

「その話はここでは別の話ではないか」

議事内容

○部会員 4

「実際の市の職員のお給料ということを考えた時に、学校があるなしを考えた時に、この会議の1回目、日光市の財政の話が出ていましたよね。その部分ではどういう風にお考えなのか。」

○事務局

「人件費という視点だけで見ますと、学校の先生は県の職員ですので、先生自体は職員の人件費という意味では、市の財政的な人件費負担という部分で絡んでくるのは、例えば用務員さんや調理員さんなどの人件費の部分が若干減るという位のもので、市全体の人件費から見ると影響はないとか、大勢に影響はないとか。ただ、市全体で同じような作業をやっていけば、当然幅が大きくなってきますので、職員数自体はどんどん減らしている状況に違いはありませんから、その流れには乗っていく話にはなるのかなと思います。あくまで人件費目線だけで言えば。」

○部会員 4

「旧日光市で既にもう何校か無くなった、もしくは無くなるという話の学校というのがあると思うのですが、そういったところではどういう話が出たのか。」

○事務局

「来年の3月31日をもって廃校になる学校が、日光地域内だと野口小学校と所野小学校になります。その統廃合の協議の過程で話に出たのは、逆に野口、所野小学校というのは児童数が減ってきている、全体の話からすると、どこの小中学校も人口が増加していた時代、子どもの数が増えていた時代にその数に合わせる形で造られている学校が現状、急速に人口減少が進み、子どもの数も急速に減ってきているなかで、その建てた当時は子供たちが通う学校が必要ということで建てられた多くの学校を維持するために、先ほど人件費の話が出てきた中で、維持管理にかかっている費用というものはある数分発生することから、児童生徒数が減っても、一つの学校にかかる維持管理費が減るかというところ、そうではないところもあるなかで、逆に野口小、所野小については、行政側から統廃合の対象とさせていただきたいという形で進めさせていただいた経緯がありました。そのなかで、地元の方からはやはり、先ほども少し話にでました、学校がなくなると過疎化につながり、地域の衰退につながるというご意見があったとは聞いています。ただ、一番何が重要かと言ったら子どもの教育環境というところなのだと思います。野口小、所野小学校においては、子どもの学校環境として、大きな学校に通うことで、将来的に子供たちが社会に出ていくときに、社会の環境のスケールが広まっていくわけなので、そのためには、小学校の頃から大人数の環境で学ばせたいという保護者の方の意見とか、それにあたっては、子どもの負担にならないような、また通学に際しての安全性の確保というところで、スクールバスは出してもらいたいということで、条件面を付して、学校を残すというところよりは、子どもの環境を考えたところで、大きな学校に統合されてもいたし方ないのではないかなという話の終結点になったというのは聞いております。

どこでも、同じ話が出るとお思いますので、この専門部会の中で話して結論を出して良いのかというのも、部会員の皆さん思われているところだと思いますし、そんな重責をこの部会で結論づけるということではなく、この専門部会のなかで、どんな意見が出て、それを、先ほど行政はどう考えているのかという話もありましたが、そういったものを、ここで出た意見を持ちかえって、学校統廃合の所管である教育委員会というところに伝えて、もう一度そこに焦点を当てたお話し合いをさせていただくというところがベストなのかなと思っております。

ここで、結論を出してくださいというところではないというところになります。」

○部会長

「学校の問題は少し難しいかもしれませんが、地域のため、あるいは生徒のための両方の視点が必要でしょうし。この専門部会の今日のところは、ハコとして学校がある前提で話を進めていくしかないのではないかな。学校の存続については、地元でも検討するというところになったようですので、それを待ってからということでもと思う。ただ、この際だからこういう意見もあるということであれば、あげていただいても良いと思うのですが。どこを優先するか。」

議事内容

○部会員 1

「例えば、委員さんから出た意見のなかで、デイサービスを学校の方にもっていった方が良いという意見のなかには、生徒と触れ合うことができるから持っていきましょうという条件が入っているのだと思う。保育園についてもしかりだと思う。学校本来のハコの部分だけ検討するというのは、凄く難しいことと思う。中身が問題だと思う。このまま学校がなくなりませんよという条件のなかでの検討だと思う。そこははき違えると、今度はハコモノだけで終わってしまうと思うのですよ。そこはもう少し皆さんの意見が反映されない状態になってしまうと思うので。確かに別ものだといえば別物ですが、なかなかここは一括で皆さんの意見をまとめるといっても、なかなか難しいのではないかと思いますよね。

○部会員 3

「学校の生徒とか触れ合いがメインだという話も、確かにあるんですけど。この小来川でいざ何かあった時に避難する場所もない何もなし、各々の公民館で避難とかしろといっても、無理ではないか。避難所とかそういったところも考えて、ハコモノとしてどうするかということを考えていった方が私は良いと思う。確かに生徒は重要ですが、小来川の住民が生活していくにあたって、支所の方も老朽化してだめ、壊す壊さない、その機能をどこに持っていか、どうするのかというのものがないのに、それを新築というのは、無理だと思うので、それならば、ある程度のところに集約して、そこを基盤にして、小来川を発展するように考えるように持っていくのがこの会議なのだと思うんです。学校も教育委員会がというのも十分大事なことですけれども、この会議の趣旨はそれとは違うのではないかというのが私の考えです。

○部会長

「先程の部会員 1 さんの方は色んな機能を合わせる時に、学校機能として生徒もいるのと、ただ、学校機能はなくなって、ハコだけあるのでは、ちょっと違うのではないかということなので、それが、ある程度の条件のなかでやるしかないのですが、もし、生徒がいなくなってしまったときには、別の考え方として、ハコモノだけで使うということもあるでしょうし。学校があることによって、保育園と高齢者の施設を集約して、交流の場になるという、それも確かに一理あるので、これは、そういった条件のなかでやる前提として、どちらでも、どちらかに偏ることもできないと思うので、そういう条件でしかまらずないと思う。ただ、最終的にどちらだという、この場で決まっていけないのですが、そういう意味では、広域避難場所になっていますから、非常に重要だというのはその通りなので。」

○部会員 4

「このパターンをいくつか出しているんですけど、図の真ん中にある学校がどうかという話が一番でないかと思うのですが、実際、昨今の色んな事件など踏まえて、現状学校というのは、生徒を守る意味でかなり規制というか、部外者が入らないようにとか気を使われている部分が多いと思うのですが、こういった複合施設になるとかなり色んな方が入ってくることになるかと思う。学校の生徒とか守るという部分は難しいのではないかと思うのだが、保育園も同様かなと思うのですが、そういう意味でも、学校もしくは、保育園があるかないか、そこと一緒にするかどうかって、ものすごくそこがキーになってくるのではないかと思うのですが。このイメージ図を見ると、学校の中にまとめてという話があったとしても、学校が実際どうかというところは、かなり施設の場所、広さ、面積色々考えるとしても、現状の学校でそれが間に合うのかとか、そういうところも不安に思うところではあるのですが。皆さんはどう思っているか。」

○部会員 5

「学校を拠点にして公共施設を集約した事例は他の自治体にあるのですか」

○部会員 4

「栗山は」

○部会員 5

「栗山行政センターは学校は入っていないですもんね。デイサービスと診療所と保育機能だけ。学

議事内容

校は特別のハコモノが必要だから結果まとめられなかったのではないかと思うのだが。学校には学校の必要なものがあるのだと思うのだが。公民館だったら、ハコが、空間があれば良いという気がするが、学校というのは、学校としての施設がないとまらないのではないかと思うのだが。」

○事務局

「市内ではないですけど、全国のどこだと言うのは今を一緒にしている事例はあります。特に学童保育なんかは割と事例は多いですね。学童保育を学校と一緒にしている。保育園と一緒にしている事例とか、図書館と一緒にしている事例とかもいっぱいあつたりします。ただ、先ほど来から話題になっていますように、生徒の安全をいかに確保するかということがもの凄く重要なテーマになります。複合化している場合には、割と物理的に建物としては一緒なんですけれども、自由に人が出入りできるというのではなくて、外から入れる人が使える場所は区切られていて、子どもたちが使う場所は別という風に、そこは交わらないように施設上区切られていて、一緒になっているという事例が多いです。」

○部会員 3

「学校に集約と言っても、現在の学校大きさで、このパターンの中で見た場合に全てを受け入れるというのは、無理ですよ。現在の校舎では。だから、学校の建物に全部をまとめるものではなくて、あの近くにふれあいの郷とかあるし、その他、休耕地と言うか何もやっていない場所もあるので、あの近くにそういう、ここにあるような施設をまとめるような考えでもいいのではないかとも思うのですけど。」

○部会長

「あそのスペース全体ということですかね。そうすると、建物を新しく造るということですかね。」

○部会員 3

「学校のなかで、使えるものは使って良いと思うのですよ。ただ、ここにある全ての機能を学校に持っていきますという、現状の学校の空いているスペースだとキャパが足りないのではないかと思うのです。」

○部会員 6

「今仰ったとおり、老人と子供たちは下の階が良いと思うんですけど、今見る限り、下の階を使うと、子どもと老人で埋まってしまうと思うのですよ。そうすると今ある職員室が必然的に上に行ったり、子ども達の教室が上に行ったりということで、そうするとほぼ埋まってしまうので、支所なんかは入らないですよ。老人と子供は下の階かなと思う、出入りが多いので出入りしやすいように。学校はそういったところで埋まってしまうのはわかると思うので、これを全部入れるのは大変かなと。」

○部会長

「そうすると、パターン2の方が良いのではないかということですかね。」

○部会員 5

「診療所施設をこの学校の中に入れるということは、治療とか分けるものがないといけないとか。そういうことに関してもあると思うのですよ。治療が見えてないと診療所だから。」

○部会長

「パターン2に近いということですかね。」

○部会員 5

「そうすると必然的に、デイサービスと診療所は近い方が良いですよ。保育園でもだいたい学校の2部屋位使わないと。その時の子ども的人数にもよるとは思うのですが、お昼寝する部屋

議事内容

も必要だし、遊べる部屋も必要だし、一緒には出来ない。出来ることもあるとは思いますが。使う部屋は確実にあった方が良いのかなと思ったりします。

○部会員 2

「診療所も移転と考えた時に、ヘリポートも考えていらっしゃるんですか。ドクターヘリの着陸場所というところですね。」

○部会員 3

「それは関係ないのではないかと、今ないのだから。」

○部会員 2

「現状ないんですけど、結局、地域住民が住んだ時に集約する場所とかになった時に、今ドクターヘリが来たとしても、結局、水まき用の消防車待ちなんですよ。地元の消防はだめなんですよ。そうすると、かなりの時間を待つことを考えると、飛んできて20分そこそこで到着なんですよ、この辺で旋回して待っている位なので、それを見ている限り、一度検討されたということも聞いてはいるんですけど、そう言う部分にはみ込まれてはいなかったということですね。」

○事務局

「この診療所の話で言えば、ヘリポートの所までは考えてはいなかったんですけど。1回目の会議の時、確かそのお話は出ていて、ある程度、水まきをしないと、ヘリが降りられないというのは問題だというお話はあったので、そこは。」

○部会員 3

「ちなみになんですけど、東小来川は降りられます。東小来川はポンプ車が必要ない。コンクリートの敷地があるので。そこで降りるようにヘリポートがなっているので、東小来川は関係ないんです。救急車が来なくて問題にはならないが。」

○部会長

「ヘリポートの話は確かに問題ではあるが、少し横道に反れてしまうので、施設を集約する上では、こういうものも一緒につけて欲しいといくことで、要望としては上げておけば良いのではないかと思います。これは、自治会協議会の方でもそういう要望があって、着陸するまでの時間かかっているということで、そういう問題は出ている。なので、それは要望として、そういう施設を盛り込んで欲しいと、ある程度、コンクリートや芝生なりと言うような。」

ここで絞り込んでもやはり、教室がどれだけ余裕があって、何を持っていけるかという数合わせになってくると、ここでそこまでは、わからないですよ、我々では。ただ、こういうものが集まってくれば良いのかなと話しの中では、パターン2の方がと言うような。どこまでスペース、学校としても生徒が一人でも教室は一つは必要でしょうから。そうなった時に複式でやっても、あるいは美術室とか、パソコンの部屋とか色々あるので。そこら辺は私たちではなかなかわからないですよ。」

○部会員 7

「通っていた身としては、保育園と児童クラブは音楽室と工作室にどうにかすれば入るのではないかと考えている。デイサービスはその上の2階が使えるのではないかと考えていて、もしデイサービスを使うのであれば、私はその2階の部屋が結構広いので使えるのではないかと考えている。ただ、思うのは給食室をフル活用してほしいと思っている。小来川には独り暮らしの人が結構たくさんいるのだが、結局交流する場がないので。私は小来川の住民は基本的に頑固だと思っていて、何かあって呼んでも来ない。」

○部会員 6

「給食室は集団衛生上の問題があると思うから、誰でも自由に入れるというところではないと思う。食品衛生面でも誰でも出入りして良いと言う訳ではないのでは。」

議事内容

○部会員 7

「出入りするということではなくて、給食室を使って、保育園にも給食を提供してもらい、デイサービスの方にも提供してもらおうと言う形で、調理のスペースとして、学校給食だけではなく、色々な用途に提供できるものとしてもらいたい。小来川食堂じゃないですけど、児童だけではなく、みんなが活用できるようになると、そこでお金も生まれるのではないかと考えていて、そのお金は少しでも小来川の地域の資金になるのではないかと。それが、一体的に出来るかどうか分からないのですが、そうすると、子供と大人が交流する、小来川の人達が交流する。小来川の人達が子供たちを守っていくということにもなるのではないかと考えている。結局交流がないから、この人は誰なのかと思うというところもあって、小来川の人達が見ていてくれると思ったら、事件事故の不安がなくなるのではないかと考えている。」

○部会長

「そうすると、スペースの問題は別として、パターン1のような、なるべく一つに全部を持ってきた方が良いということか」

○部会員 7

「全部は難しいとは思いますが、誰でも入って来られる施設というか、私は小来川の誰々ですみたいな、複合施設でも、地域外の人が入ってくるのではなくて、地域の人顔と名前がわかって、地域の人が学校のことも手伝ってくれるというか。結局都会だと、隣の人の顔も知らないような人が多いという話を聞くんですけど、小来川ってどこの家のおじいちゃんだとか、どこの家の子供だとか大体知っていると思うので、それを活用するというのもあるのではないかと私は思います。」

○部会長

「そうすると、意見としては、今ある色々な施設を、いわゆる学校なら学校だけの用途ではなくて、他のものにも活用したらどうかという事と、そこに集まる人もなるべく一か所の方が協力しあって出来るだろうという、そういう施設が良いという事ですよね。」

○部会員 7

「全部でなくても」

○部会長

「あくまでも建物は大規模改修、あるいは建て替えとあるから、今の教室はそのまま使うわけではないですよね」

○部会員

「一番良いのは、一つの建物に集約出来ることだが、しかし、これは行政の予算だとか色々な面では大変だと思います。それと、本当に学校を使うとなれば、今日校長先生も出席されていますけれども、校長先生の意見を聞いて、こういう風に出来るのではないかと、そういう意見を聞いて、それに基づいて取り組むと一番良いと思う。地域の人や、いつでもそこに集まれるような、そういう環境を作るというのが、一番良いのかなと思います。ただ、一体化するというのは、やはり行政が厳しいです。ですから、よくその辺検討して。」

○部会員 3

「行政は一体化したいと言っているのでは」

○部会長

「個々に建て替えるのは大変だし、財政的に厳しいので、一体化するという方法が良いのではないかと提案を市の方から出している」

○部会員 3

「そのために集まっている」

議事内容

○部会員 8

「ちなみに診療所は月・水・金とかそういうレベルでしかやっていなかった気がするのですが、それで足りているのですか。私は制度とかは良くわからないのですが、学校の保健室を使えると凄く楽だなと思ったのですが。」

○部会長

「学校の中に給食室とか保健室とか色々ありますけど、本当にそれを共用化して大丈夫なのかというところもあるかと思うので、その辺学校としてどうか、校長先生からご意見を伺いたい。」

○部会員 9

「学校に色々な施設が入るという事は、子供達にとっては凄く良いことだと思うんですね。ただ、先ほどから安全面という事が言われている通り、学校はここまでで、ここからは他の施設というような区切りというのは当然必要だと思うし、そういった改修というのは当然ないと、学校としては、運営は難しいのかなと思っています。色々な機能が集まって、人が来るというのは学校にとっては有難いことなんでしょうけども、それをどう整えるのかという事が一番の問題だと思います。」

○部会長

「例えば保健室と診療所が一緒になってしまったら、菌を持ち込むとかそういうことにもなりかねないですね」

○部会員 3

「保健室を診療所に使うとかそういう話が出ているが、やはり学校は学校の機能、保育園は保育園の機能というのをどこかで分離しながら、融合するようなことを考えていくのは、教育委員会であつたり、そういう専門家が考えることであつて、先生に保健室の使い方や給食室の使い方をどうですかと聞いても意味がないと思うんです。先生にそういった質問をするのは酷だと思う。ですから、そういった機能が集まった施設にした方が良いのかどうかという漠然とした考えをまとめるだけであつて、細かいところをここで議論しても、そういう話ではないと思います。」

○部会長

「そうですね、それは法律上の規制とかもありますからね。そうするとパターン1、パターン2というのはあまり差をここで話し合ってもですね。」

○部会員 1

「西尾アドバイザーにアドバイスいただきたいのだが、複合でやっているところのデメリットというのは耳に入ってこないのでしょうか。」

○西尾アドバイザー

「デメリットと言うのは、少なくとも施設のコスト面では集約することでメリットが出るので、それは良いですけども、ただ、運営上で先ほど来安全性をいかに確保するかという事で、部屋を分けて管理体制を分けたりすると、むしろ管理にお金がかかったりというそういう面はあるかもしれません。ただ、どちらかと言うとメリットが出ているという事例の方が多のかなという感じがします。例えば、先ほどの話で、学校の図書館を地域も使える図書館として共用しているという事例なんかですと、子供達はその図書館の運営を手伝ったりしているという、それが凄く教育に良いとか、デイサービスセンターが学校の中に入っていることによって、核家族で普段なかなかおじいちゃん、おばあちゃんと触れ合う機会が減っている子供達がおじいちゃんおばあちゃんと触れ合うことで、優しい子供に育っているとか。そういう話はよく聞いていますね。」

○部会員 2

「学校ってテストとかがあるじゃないですか。賑やかだとうるさいよとなるだろうし、そういう面なんかは、そういう対応を考えた物に造るのでしょうか。」

議事内容

○西尾アドバイザー

「そうですね、そこは物理的にきちんと分けたりとか、時間帯で分けたりとか、そこはハード面ソフト面両方で色々な工夫が出来るのかなと思います。」

○部会長

「そうすると、パターン1とパターン2はあまりここで話合ってもですね、細かい規制とかもわからないし、まあ全体の意見としては、なるべく学校の場所に色々なものが集まってきて、診療所に来て家に帰るのではなくて、孫が遊んでいるのを見ながら帰ることもできるという意味ではみなさんそういう意見が多いのではないかなと思うんですよ。ただ、あまりこのパターン1、2ってどうなんでしょうか」

○事務局

「ご意見の通り、実際色々つめていって、ご意見いただいたのに、法律の面でだめですよとか、細かい部分で確認しなくてはならないところがたくさんあります。これはあくまで、2回目3回目皆さんから出たご意見を何となくイメージにすると、一つにまとめてというところで、一つの中でも、世代間交流と地域外の方との交流と言うところは、逆にいうと学校ではない場所というところになってくるのかなと思うのですが、何となくのイメージとしては、一つにというところが意見の大半だったので。ここはあくまでイメージと言うところで、今日また色々良いご意見出てるのかなと思います。実際に、では、一つの建物に集約、あるいはパターン2のような拠点を2つとかというところで、それぞれの機能を入れていくという作業をしていく中で、何を入れたいのか、またキャパ的にどういうものが入る可能性があるのかとか、そういったところはもう一つ専門的なところで詰めていく必要があると思いますので、今日は皆さんのご意見をイメージ化するとこんな感じでよいかという認識の共有というところで、このパターン図はみていただければと思います。」

○部会長

「では、そういうことで、捉えたいと思います。確かに色々な法的なことは私達は素人ですから。」

○部会員10

「基本的にはパターン1でもパターン2でも、地区センターと保育園は集約されるという事ですよ。パターン1でも2でも、結果解体しなきゃいけないので、この2つの施設については、小中学校の複合化施設にはなるということですかね。」

○部会員3

「違うのではないかな。地区センターは林業研修センターではないかな。公民館機能は学校の中に一緒になるということではないかな。」

○部会長

「一番老朽化しているのは、この地区センターですよ。」

○事務局

「先ほども事務局からお話しましたがけれども、このパターン1、パターン2は今までの会議のなかで、出された意見をイメージしていくと大体こんな感じかなというところで、デイサービスと診療所を入れるか切り離すかとか、地区センターと公民館機能を分けるか分けないかとか細かいところはありますけれども、地区センターの建屋がもう古くて解体しなくてはならないので、もう必ず学校に入りますとかそういうのではなくて、今までの話をイメージ化するとこんな感じかなというところですので、決め決めの話ではないです。例えば、学校の中に入れるのが難しければ小来川地区センターと公民館を今後別の場所にどういう風にしましょうかとかというのも今後の議論としては出ることはあろうかと思いますが、今までの議論の中では、やはり学校という建屋が一つのポイントであったという事で、こういった形でお示しさせていただいたという事ですので、必ずこうなるとか、どちらかにしなくてはならないとかそういう事ではございませんので、その辺はご理解いただければと思います。」

議事内容

○部会員 9

「その上で、希望みたいなものと言っても良いですか。やはり災害とか起きた時に、小来川住民全員が入れるかどうかはわからないですけど、体育館にみんなが集まっても大丈夫なように補強して欲しいとか。地区センターだったら、学校の中に入れなければ、せめて学校の近くにならないと機能しないのではないとか、そういう不安があるので。あと、給食の時間だけ、お年寄りや小来川の人が誰でも500円なり払えば食べられるとか、そういうのは凄く素敵だと思いますし、やはり防犯的なこともあると思うんだけど、やはり小来川の強みというのはみんな顔を知っているとか、信頼関係があるというところだと思うから、入ってくる大人達をセキュリティというのではないですけど、かといって私も小来川の人全員の顔を知っている訳でもないので、絶対大丈夫という事でもないのですが、その学校以外の方が入ってくる時にちゃんと確認をして、入れば、みんな知っている小来川の人達だから、昼休みはお年寄りの人も子供達と遊ぶとか交流するという事が出来れば本当は理想的だなとは思いますが。」

○部会員 3

「私も理想を言っていていいですか。先ほどの話と似たような話になるのですが、私は学校に全部まとめるというより、現在の校舎に全部をまとめるのではなくて、あの近辺に集約させてもらえないかというのが、一番の意見なんです。何にしても、先ほどの給食の話もありましたけれども、そういう色々な施設を集約して、空いた施設を民間の方に有料でも、売りに出しても良いし、何か、色々な会社とかお店とかがもしかすると、こういう建物があるんだったらそこをそのまま使いたいという方がいるかもしれないので、それは、今の施設を残しておいて、小来川の必要な公的機能は学校の近くに集約していけば、小来川自体が盛り上がるのではないかと思うし、また他と変えて、もっと小来川らしさではないですけども、他と違うと言うところを売りにだしていけば、宇都宮の城山じゃないですけども、こういう学校で周りに医療設備もある、良い地区の中で勉強が出来るなら是非この学校に通わせたいという親御さんも出てくるのではないかと思うのです。学校に全部をまとめるとかそういったことではなくて、あの近辺に集約して、施設をまとめた方が良いのではないかというのが私の意見です。」

○部会員 2

「ふれあいの郷の話が出てきたと思うので、学校の一番近くの公共施設という事で、ここに書いてないというのはキャパ的に何もできないという事だったんですかね」

○事務局

「そもそもふれあいの郷については、建屋自体が20年経っていない新しい建物という事もあって、そもそも今回の検討のところとは一線を隔していた部分も正直ございます。で、そもそもふれあいの郷がどういう目的でどういう機能を持った施設なのかというところを考えた時にも、機能面だったり何だったかという、学校に入れるというよりは、エリアとして学校の付近である施設をどういう風に使っていくのかと、今すぐ壊してどうこうという話でもないでしょうから、あそこをどう活用していくのかというところは、やはり学校と同じで、ふれあいの郷については、一つのポイントになってくるのではないかと考えています。

そもそもが、地区内外含めた交流の拠点ということで造られたということでも聞いていますし、それがどう運営していくのかというところはソフト的な話にもなるかと思えますけれども、今後ハード全体を考えていく中では、エリアとしてどう考えていくのかというところでの、一つのポイントがふれあいの郷になっていくのかなという風に市としては考えているというか、イメージしているというところですよ。」

○部会員 11

「今回の施設というのは、公共施設適正化検討会ということで、公共施設のこれからの造ったり壊したりというもののパターンで皆さんの意見を聞いているという感じで、私も前回からしか出席していないので、よくわかりませんが、皆さんで考えているのは、施設がどういう風に集約するとか何とかというよりも、この地区で課題となっている、働く場所がないとか、人が集まれる場所を作らなくてはならないとか、そういった部分で言うと、市の方の考えとはギャップがあると言う感じがどこまで行ってもするので、今回は学校施設（機能）のということでテーマ

議事内容

を絞ってくれということだったのですが、やはりそちらの方も色々な施設の活用方法というのを外さないで行っていただける方が良いのではないかと思います。

市の方はある施設、老朽化した施設をどういう風にするかというパターンの中で、地元の皆さんの意見を聞いて集約したいということしかないわけじゃないですか、だけど、皆さんの意見というのは、そういう建物がどうするかというよりも、この会議の中で出て来ているということは、働く場所がないからどうにかならないかとか、人が集まる場所がどうにかならないのかということが出ているじゃないですか。その方が大切なような話をしているのではないですか、みなさん。」

○部会員 3

「それは違います。その会議の中のテーマがそういったテーマだったので、そういったことを話し合っ、意見として出したのがそれだった。」

○部会員 1 1

「でも、市の方の話とは直接的には繋がっていかないでしょう。」

○部会長

「機能としては今なくすということは、全然ありませんよ。市の方からは、今ある機能は残すという事は前提ですね。皆さんそういうところで、いらないという話が出ていない。」

○部会員 1 1

「学校の中に色々な施設を入れるとかの話の中で、皆さんは交流の場とか何とかというのを、そこに求めようよとしても、活性化とかそういうものに直接つながらないように思うのだが。」

○部会長

「活性化に繋がるかどうかということですか。

では、その活性化に繋がる、例えば、今ある機能でしか見ていないが、こういう機能を持たせようとかそういう意見を皆さんからいただければ非常に良いかと思いますが、物理的には一緒にしても、プラス α でこういう機能も持たせてほしいとか、せっかく一緒にするのであれば、そういう意見を皆さんの方からいただくという事で2回目、3回目の話があったんだと思うんですよね。ただ一緒にするので、複合的にどうこうするという事ではなくて、最終的に皆さんは小来川のこれから存続させていきたいと、それからみんなと交流して楽しくやりたいという意見があった訳ですから、そのためにはこういう機能も持たせてほしいという、新たな提案でもいいと思う。」

○部会員 3

「この学校の近くにまとめる、学校を拠点にするというのは、グループワークの中で出た話ですよ。これは自分達で考えた、意見が出た話ですよ。」

○部会長

「潜在的には市の示した最初のパターンはあったと思うが」

○部会員 3

「それはあるが」

○部会員 2

「ここに出ているスケジュールじゃないけど、こういうのがありきの話ではないか。予算があつて、それが出来るとか出来ないという話で。使い方を考えていくとかそういう話になると。」

○部会長

「まあ、多分今のままで行くと、20年位で建て替えるところが、30年、40年使わないと建て替えないということになるのが、現実のようですから、そうだったらもっと、その部分を他の

議事内容

ところに回した方がいいのではないかというのが、市の方の考えだと思うんですね。経費を抑えながら、機能は逆に膨らましていくことが出来ればいいのではないかと思うのだが。学校のどうこうという話については、例えば、皆さんの中でも触れ合いの場所とかという事は出ていますから、そういう意味で、この会の中では、残した方が良くはないかとかそういう意見はあっても良いと思う。それは地域としての考えとして。PTAとしてどうなのかというのは別にあるだろうけど。」

○部会員 2

「事務局に質問なのだが、今、話を聞いていて、このパターン化の中で、学校の中に機能を全部入れるパターン、もしくは、学校施設の周りに色々な施設を建てるパターン、何か所かに複合化して建てるパターンというのがあると思うのですが、それぞれの今後のランニングコストであったりとか、建てるための費用であったりとか、予算という部分だと思うんですけど、大元の日光市の財政がという所があったと思うんですけど、その部分でどれが一番、市からすると有難いのかというのを、聞きたいというのがあるのですが。と言うのが、この意見を色々聞いたとしても、色んな部分で、その意見に答えられない場合がありますというお話はあったと思うんですね、という事は、市からするとこれ位の予算で造りたいんだけども、どうだろうと言ってもらった方が考えやすいというのがある。多分意見だけだと好き放題言えるとは思うんですね。ただ、予算という部分は最終的にのしかかって、ダメなことが出てきた場合は、多分やる気はなくなるだろうし、この会議なんだったのかという話にもなるかと思う。そういう部分の現実的なリアルな部分と言うのを聞きたいと思うのですが。」

○事務局

「正直、そのリアルな部分はないです。予算がいくらだからどうかという事は、現状としてはないです。ただ、今回皆さんに集まっていたいて、この公共施設というものを軸に色々考えていただく中で、先ほど来、色々な意見が出ていると思うのですが、結果小来川地区をどういう風に良くして行こうか、そのハードに限らず、もちろんハードが取っ掛かりにはありますけれども、ハード面を取っ掛かりとして、どういう風に良くして行きましょうかという議論になってらっしゃると思っています。例えば、学校だったら学校に集約しましょうということで、色々な施設が集まって、色々な人が集まる、その周辺エリアの施設も活用して、人が集まる、そこに一つ賑わいが生まれる。例えば、ふれあいの郷の直売所の機能が出てくるとか、そば打ちの体験教室が出てくるとか、色々な違う使い方が出てくるとか。ということで、一つ賑わいが出てくることによって、ソフト的な新たな展開を考える部分も可能ではないかとか、そういうことも今後の話としては出てくるのではないかという風には思っています。ただ、今回こういう形で示させていただいたのは、これまでのご意見をベースに考えるとこういった所かなということですから、また本日ご意見いただいた所でしたり、あと、そもそも、学校機能をどうするかというこの議論とは少し別の議論のところでも、少し流れが変わってくることもあろうかと思えますし、実際にお金をはじいたときにここはちょっと厳しいですというお話をせざるを得なくなるかもしれません。ただ、現状としては、フリーに小来川地区と言うまちを考えた時に、どういう風に来れるかという皆さんの忌憚のないご意見を正直いただきたいという所です。」

○部会員 1 2

「今事務局から話があったけれども、やはり、大きな一つの活性化とかもちろん当然くっついてくるものだけれども、公共施設マネジメントで、この小来川地区センターは古いから平成27年あたりから建て替える計画になっていたと思うが、色々な市が言っている財政が困難だから、結果的にはそれを既存の公共施設を利用しながら前の地区センターも機能させようという事で、皆さんの中でも学校のところに機能、施設を集約させようという話が出たり、先ほども話が出た、公民館と学校が一緒の例が他にもあるかとか。そういう例はこの近くだと栃木にあるですよ。これは、公民館活動として、学校と一緒に利用している訳です。その代わりに、学校の教室には一切入れない、その代わりに、学校の機能として持っている給食室とか音楽室とか、公民館活動として、代表者には貸している。そういう機能はできる訳だけれども、その他の一体感のある施設という視点になってくるのかと思うのだが、それはいずれにしても、この今の地区センターを27年頃から公共マネジメントの市の計画では建て替えという事で始まったと思うのだが。」

議事内容

○事務局

「平成23年当時に庁舎の整備計画というものをたてた経緯はあります。庁舎の整備計画というのは、小来川の地区センターなんかもそうですけれども、その当時の計画では、優先順位をつけて、古いところから順番に庁舎の建て替えをしましょうという計画で、小来川もその時の計画上は建て替えという方向で計画されていました。その後、この公共施設マネジメントの話として、大元の話になってしまうのだが、公共施設を今までの規模で建て替えて行こうとすると、全然財政的なところで、全ての建物を同じ状態で建て替えることは難しくなっているということが、見えてきた。それが、マネジメント計画の中で、一度そういった整備計画は作られていたけれども、では、地区センターをそのまま同じような状態のものを、同じ場所で、同じ規模で、同じ内容で建て替えるというお金が厳しいというのが、現実的あります。先ほどもご質問ありましたけれども、実際行政として、どういったところでやり方として良いのかという所と言えば、そういった事情がそもそも前提にあります。昔は単体単体で、その施設の目的ごとに施設を単体で造っていました。地区センターもそうですし、林業研修センターも林業の目的というところで、建てています、デイサービスセンターもそうです、診療所もそうです。それは、昔は目的ごとに1施設という形で建ててきましたけれども、では、それを更新する時期になった時に、同じ様なところでの建て替えが難しくなってきました、だから、今度そういった老朽化して建て替えなくてはならなくなっている現実が来ている施設を、今のまま建て替えられないのであれば、他の小来川地区内の既存の施設使える施設を使って、入れる機能については、知恵と工夫を出しながら考えていってほしいというのが、そもそもこの専門部会の立ち上げの目的という所になります。またニュースターを見ていただければと思うのですが、一回目の会議の時に見開き左ページの一番下に西尾先生の方からアドバイスいただいて、そもそもそういった人口の減少とか税収がだんだん減ってきているという状況で、このまま同じものを建て替えられなくなってきたなかで、建物自体は減らしていかなくてはならないのだけれども、そこでやっている機能とか、その建物を使ってどういうサービスを実現していくかというところは、ここに集まっている皆さんの知恵とか工夫で、膨らませることが出来るというアドバイスをいただいているかと思うんですけど、多分ここが一番のポイントだと思っていて、実際色々、良い意見をたくさんいただいている中で、皆さんが望む大きな施設は難しいですよと言うお話はせざるを得ない場面もあるかとは思いますが、ただ、逆にそういった意見をいただいた中で、何か出来ることとか、ソフト的なところで対応できることとかと言うのも、逆にこの部会の中で見えてきたような気がしているので、そういったところを出来るもの出来ないものというところは、整理しながら、既存の建物をどう有効に利用していくのかというところが今回の専門部会のキーにはなっているのだが、なかなか決着点は難しいと思うのですが、そういったところが背景にはありますというのは、一番最初の会議ではご説明したのですが、再度にはなってしまうのですが、そんな背景がございます。」

○部会員12

「やはり、財政というものが一番頭にあるんだと思う。では、逆に既存の建物を使って、皆さんからの意見で取り入れられるものと、取り入れられないもの、実際、この地区センターを当初の予定どおり、建て替える、だけど、保育園も子供もいない、そういったことをやっているうちに、それぞれのタテと横の連携というのはやっているのか。」

○事務局

「当然、この専門部会にかける前には、関連する部署間で検討のプロジェクトチームを作って、話し合いをしております。実際ここでいただいた意見を庁内の関連部署の集まりの中でフィードバックして、もんでいくという作業になっていくと思います。」

○部会長

「最後は公共施設ということになってしまうんですけど、今まで出てきた意見で、外から来た人をもてなす部分とか、それから、地域に仕事を作るとかという、そういった面はどうしても、公共施設というところだけなので、ただ、考え方としては、余った施設をまた使えるということもあるので、そういう意味では、もう少しそういうものが見えてきた時点でそういう意見も地域から吸い上げていただければいいのではないかと思います。この時点でなかなか整理できないです

議事内容

ので。そういった時にまた、地域の意見をひろっていただけると。せっかく色々な意見が出て有意義な話し合いも出来たと思いますので、専門部会長としては、そういうものも汲み取っていただけると良いと思います。」

○部会員 1

「市の方をお願いしたいのですが、確かに専門部会でこういう話が出て、市の都合のいい部分だけを意見として吸い上げるということがないことをお願いしたい。確かに出したけど、意見はあったけど、これはできません、だめですよと言うのは、お金の都合によって、この部分の意見だけとったんですよと言う話になる気がするので、そこは、何のための専門部会なのかということの意味をもってもらって、この意見を集約していただきたいなと思います。この会議の一員となっている立場としては、お前たちが意見を出したのだろうという話にもならないとも限らないので。せっかく意見を出したけれども、私達の求めているものとは違うものばかりでそうってしまったよという話になると、では、自分達は何だったのかという話になる気がする。そこはもう少し、委員からせっかく意見が出たのだから、そこを考えていただきたいと思う。」

○部会長

「要望ということで」

○部会員 6

「今日も色々意見が出たのですが、やっぱり、子どものことを考えて、学校に集約するというのをやってほしいと思います。何でもかんでもいれてしまって、一緒にしてしまって、建物建てられません、お金もかかります、子供達の方にしわ寄せが行くようなことはやめて欲しいなと思います。地域の人や、地域外の人が入り出す施設でも良いとは思いますが、学校の機能を、子供達のことを第一に考えて、後は小来川の人達のことという事を考えてもらわないと。先ほど話にあった、安全面、セキュリティのこともあると思うので、そこはよろしくお願いします。」

○部会長

「では、大体ご意見は出たでしょうか。それでは、ここで西尾先生の方からアドバイスいただければと思います。」

○西尾アドバイザー

「凄く良い意見が出たと思っていまして、特に学校を複合化するというのは、全国的にはいくつか事例はありますよというお話したんですけれども、大体都会の事例が多いんです。都会だと、どんな人が入ってくるのかわからないので、そこは本当に子供達とは接しないように物理的にも分けてきっちりやっているという例が多いのですが、今日のお話を聞いていると、特に小来川の人達と言うのは、みんな顔が分かっているよという話があって、むしろ外の人が入ってくる施設ではなくて、地元の人達が入れて、交流する施設という風に学校の施設を位置付けていくと、むしろその中では安心して子供たちも大人も交流できるという、そういう場所に来る可能性があるのではないかと、それが正におっしゃっていた、小来川の強み、みんな人が良くて、お互いよく知っているということを生かしていける可能性があるのではないかと感じました。その中でも、食堂をキーにして色々な人が交流しやすいような仕組みにしていこうというのは、凄く良いアイデアだなと思いましたので、それは申し上げたいなと思いました。それと、それが、小来川の中の人達の交流ということですが、部会長からもありましたが、もう一つの視点としては、外の人をどうやって呼び込むのかとか、外の人との交流をどうしていくかということも今までのグループワークの中でも凄く重要な視点として、出ていたと思います。外の人との交流が深まっていけば、なかなか仕事には直結しないかもしれませんが、小来川地区の活性化に凄く結びつく話だと思いますので、それは、またご指摘ありましたけれども、学校の施設だけで考えるのではなくて、近隣の施設も連携しながら考えていくという中では、今回対象施設にはあがっていませんでしたが、今日もいくつか議論が出ていました、ふれあいの郷なんかをうまく活用しながら、外からの交流、外との交流というところを、そのふれあいの郷を使ってうまく実現していくということで、地区全体で考えていくと、かなり可能性が広がっていくのではないかと感じました。最後にせっかく良い議論してきたので、良い所どりにならないよう

議事内容

にお願いしたいという意見がありましたけれども、多分、そこは行政の方が考えているところとして、今回、会議がもう一回増えて、今日の議論を踏まえて、市側からその意見を踏まえた案というのが出てくるということで、もう一度会議を開いてということになっていると思いますので、かなり丁寧に進められていると思うので、毎回毎回の内容をニュースレターのような形でまとめながら、ということに来ておりますので、その心配はないというか、また次回の時に、確認する展開になってくると思いますので、そういった形で、物凄く良い話し合い、良い意見が出ている部会だと思いますから、それはうまく市役所の考えと重なって、良い展開に次回以降なってくるというと思います。私からは以上です。」

○部会長

「ありがとうございます。確かにこのニュースレターの回覧と言うか、各戸に配布して、やっているんですねという話も聞きましたので、地域の方も、かなり目を通していただいているのではないかと思います、そういう意味では、今後もこう言った形でまとめていけるのか良いのではないかと思います。では、検討という時間については、これでよろしいでしょうか。なければ事務局にお戻ししたいと思います。」

○事務局

「では、以上を持ちまして第四回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会を終了させていただきます。」

以上